

～ All for one, One for all. ～



光の家

THE LIGHT HOUSE FOR THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設
東京光の家会報

— 206 号 —

2020 年 4 月 24 日発行

いと高き者のもとにある隠れ
場に住む人、全能者の陰にやど
る人は主に言うであろう、「わが
避け所、わが城、わが信頼しま
つるわが神」と。
主はあなたをかりゆうどのわ
など、恐ろしい疫病から助け出
されるからである。主はその羽
をもつて、あなたをおおわれる。
あなたはその翼の下に避け所
を得るであらう。
そのまことは大盾、また小盾
である。

詩編 第九一篇

一～四節



桜をバックに記念撮影（神愛園）

巻頭言

葉桜のみぎり、いかがお過
ごでしょうか。

今、世の中はコロナ感染に
恐怖を感じ、それぞれのコロ
ナ対策を講じていることと思
います。

今月号の会報の詩篇第九一
篇の「主は恐ろしい疫病か
ら助けだされるからである。」
という聖句は神を信じ、神が
宿る人に神は羽でおおうがご
とく盾となつて守つて下さる
ということです。

今回は創立者秋元梅吉と
親交の深かった元光の家の利
用者であった故吉野清一郎氏
の次男の拓雄様よりお手紙を
頂戴しました。その文章には
父は聖書に出会い、生きる希
望を得たこと、そして神を信
頼し、頑張る人生であったこ
とが書かれていました。この
苦難な時こそ神を信じ祈るこ
とが大切だと感じます。どう
か神様、この困難から私ども
をお救い下さい。

（理事長 石渡 健太郎）

元光の家利用者（故吉野清一郎氏）の息子さんからの手紙

次男 吉野 拓雄



伸べて下さり、故秋元梅吉先生は、道を開いて下さいました。

二月九日の日曜日、父、吉野清一郎が天国へ召されました。十四歳の時に完全失明し、人生をあてなく悲しむだけだった父は、聖書に出会い、生きる希望を得ました。

得ましたが、どう生きていいかわからず、また、昭和十年代の頃には福祉も充実しておらず、下手をすれば「盲人は家の座敷牢で引っ込んでおれ!!」というような時代で、少年である父は、途方に暮れていました。そんな父に光の家は手を差し

本来光の家は、複数の障害を持つている方のための施設であって、父のような視覚障害のみの人は入れてもらえない施設だったのですが、秋元先生がお役所の方々に、「これほど向学心のある少年一人救えなくて何のための福祉か!!」と啖呵を切って下さり、「この子は絶対にうちに入れてみせます」「吉野君、君は安心して、ただ頑張りなさい」と迎え入れて下さったのです。

その後、せっかく盲学校に入れても、教科書を買うお金もなく、「やはり僕のような者はダメなのか」と、トボトボと線路づたいに青梅に帰っていく父の後ろから、重たい教科書の束を持って追いかけてくださり、「おーい、教科書はある!! 君は安心してただ頑張りなさい」と迎えに来て下さいました。教科書をどうやって手に入れたのか? また役所で啖呵を切られたのか? とにかく父は大喜びで、盲学校に入学してから、今までのロスを取り戻す気で勉強し、飛び級で進級し、鍼灸師の資格も取れて、そして聖書学校へ進み、牧師になりました。



いは、どれほど大きなことだったか。父の青春は、ここから始まりました。

息子の私から見ると父は、本当に楽天的で、父の生涯は、秋元先生の「君は心配しなくていい安心して、ただ頑張りなさい」という教え通りに、父なる神様を信頼して、ただ、ドーンと頑張る。そういう人生だったと思います。

大恩ある光の家の皆様に感謝と、神様からの限りの祝福がありますようにとの祈りを込めて、この手紙を書かせて頂きました。



在りし日の故吉野清一郎氏



「新生園 納め会」楽器演奏

今年度も東京光の家各施設で年度末の恒例行事である「締めくくりの会」が行われました。コロナウィルスの対策として、時間を縮小し、換気等も徹底した中で行いました。第一部の式典では石渡理事長のご挨拶を中心とし、光の家一〇〇周年の一年間を振り返りました。また訓練や仕事に誠実に励んだ証に表彰も実施されました。第二部の会



「栄光園 みのりの会」みんなで創立 100 周年を祝う

食では美味しい食事を頂きながら、演劇や音楽の演奏など各施設で趣向を凝らしたプログラムが披露されました。この一年間さまざまな形で光の家に関わっていただいた皆様、一〇二年目の光の家も引き続きよろしくお願い致します。

平成三十二年 締めくくりの会

三月十八日(水) 光の家就労ホーム
 二十四日(火) 光の家神愛園
 二十五日(水) 光の家栄光園
 二十六日(木) 光の家新生園



「就労ホーム 結の会」恒例のダンスタイム



「神愛園 感謝会」聖書朗読で一年を締めくくる



手洗い指導も笑顔で実施

東京光の家ホームページ <http://www.hikarinoie.org/>

視覚障害者の場合、「触るが見る」ことであり、手洗い洗浄が欠かせません。コロナウィルスと闘うためにより一層、利用者への手洗い指導に力を入れています。なお新聞記事は、光の家ホームページで紹介されています。

東京光の家の
コロナウィルス対策

四月十三日号の福祉新聞の「コロナ禍と闘う」に、東京光の家のコロナウィルス対策が、大きく取り上げられました。

百周年記念式典・祝賀会

令和二年二月十五日(土)
会場 立川パレスホテル

「東京光の家創立百周年記念式典」式次第

司会 神愛園 藤巻契司
奏楽 総務課 南 絢子

開会のことば

司会

讃美歌 312番

聖書朗読 神愛園 原田和秀
「ヨハネによる福音書 第9章 1節〜5節」

祈祷 理事 相澤忠一

ビデオ上映 東京光の家百年の歩み

挨拶 理事長 石渡健太郎

来賓祝辞 東京都障害者施策推進部 部長 松山祐一様
日野市長 聖明福祉協会 会長 大坪冬彦様
東京都経営協会 会長 品川卓正様

来賓紹介 衆議院都議会議員 古賀俊昭様
日野市議会議員 西野正人様
全社協 常務理事 寺尾 徹様
全国経営協会 副会長 金子伸行様
全国セルブ協 会長 阿由葉寛様
全身体協 会長 川本明良様

代表への感謝状贈呈 上の原自治会会長 田村 功様
地域ボランティア代表 本多 信様
賛助会会長 高田敏江様
愛のサウンド後援会会長 澤田研二様
川保建築研究所(業名) 川保昌明様

祈祷 評議員 加藤保武

讃美歌 514番

閉会のことば

司会

社会福祉法人 東京光の家
創立百周年を祝う記念式典・祝賀会が行われました。

「式典」では、日頃、光の家の活動に様々な形でご尽力頂いている関係者の皆様に、感謝状をお贈りするなど、光の家から感謝の意を表す事ができました。

「祝賀会」では、光バンドの演奏を聴きながら、食事を楽しんでいたとき、関係者の皆様と楽しいひとときを過ごすことが出来ました。



「来賓祝辞」聖明福祉協会 本間会長



「式典」の様子



「式典」各団体の代表の皆様へ感謝状贈呈



「祝賀会」の様子

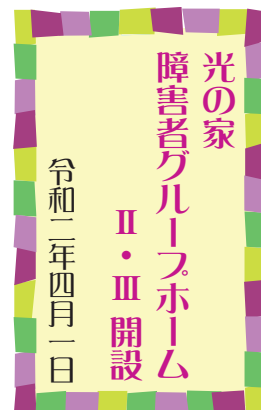


「祝賀会」100周年にふさわしい光バンドの演奏となりました！



手前がグループホームⅡ、奥がⅢ

令和二年四月一日、光の家に
とつて三棟目、四棟目となるグ
ループホーム「東京光の家障害
者グループホームⅡ」「東京光の
家障害者グループホームⅢ」が
オープンしました。
四月からこの新しいグループ
ホームに入居したのは、光の家



建物正面に掲げられた新しい看板



グループホームⅢのリビング・ダイニング



グループホームⅡの居室



新生園から一名、光の家栄光
園から三名、光の家就労ホー
ムの通所の方の中から十名の、
計十四名です。
入居される利用者は約三倍、
短期入所の定員も三倍に増え、
一気に賑やかになった光の家障害
者グループホームをどうぞよろ
しくお願いします。

光の障害者グループホームⅡ
三階建て（男性棟）
利用者居室 七室
短期入所 二室
リビングダイニング

光の障害者グループホームⅢ
一階建て（女性棟）
利用者居室 七室
リビングダイニング



グループホームのオープニング式

光の家新生園



井上 ゆきの
東洋大学卒

光の家新生園



中田 莉央
東海大学卒

光の家新生園



若菜 啓多
国立身体障害者リハビリテーションセンター学院卒

令和二年
度

新任職員紹介

今年は、東京光の家に、五名の
新任職員が加わりました。
ご紹介します。



光の家就労ホーム



清水 岳人

光の家就労ホーム



浦崎 隆一



アイマスクをするだけでこんなに難しいんだ～

小学生の施設見学と中学生
の職場体験が行われました。
施設見学では、作業風景の
見学や実際にサウンドテーブ
ルテニスに挑戦してもらった
り、目の見えない世界を体験
していただきました。

**施設見学と
職場体験**

一月二十日～二十四日
立川第七中学校（職場体験）
二月三日
日野第五小学校（施設見学）



栄光園で作業の様子を見学

職場体験では、一週間を通
してそれぞれの施設の作業体
験やカンパニーでのレストラン実
習などを体験していただきま
した。体験した学生からは「園
生の方が明るく前向きに過ご
していることが生活の様子か
ら伝わり、今まで抱いていたイ
メージから一変しました。」「こ
れからは困っている人がいた
ら助けてほしい」「差別の無い社会
を作りたい」などの感想をい
ただき有意義な職場体験とな
りました。



光の家新生園入所式 (3名)



光の家就労ホーム入所式 (1名 前列中央)



三人で大人の仲間入り

令和二年度
入所式

令和 年四月一日(水) 光の家就労ホーム
令和 年四月七日(火) 光の家新生園

新型コロナウイルスの影響を受け、時間短縮、参加者を限定した状況の中、今年度も光の家就労ホームで一名、光の家新生園で四名の入所式が行われました。

新しく利用開始する皆さんは、新たな門出に緊張しつつも、先輩方からの心温まる歓迎の言葉を送ってもらい、安

心されたようで表情も和らいだようでした。

巷ではコロナウィルス一色ですが、当日は春の陽気となり、恵まれた天候の中での開催となりました。ぜひこの環境下を乗り越えて、これから皆さんの成長とご活躍を祈るばかりでした。

新成人を祝う会

令和 年三月十二日(月)

今年は光の家新生園から一名、光の家就労ホームから二名の新成人をお祝いしました。

新成人となった三名は、集まってくれた方々の前で、それぞれの今後の抱負を発表すると共に、育ててくれた親への感謝の気持ちを伝えることが出来ました。

寄付者名簿

令和元年十二月十七日
～令和二年四月十七日

山崎 群治様 みかん 二〇kg
安積 和男様 漬物 二kg
北矢 行男様 みかん 六〇個
小園江 康様 干しいも 一〇kg
外山 晴子様 レトルト食品 五七個
浜口 宗武様 車椅子 一台
押金 好美様 八四円切手 二〇枚
社会福祉法人 東京都共同募金会様
NHK 歳末たすけあいによる配分
光の家障害者グループホーム
ユニット増に伴う備品整備費
二七〇万円
社会福祉法人おおぞらやまばと施設長
篠 昭義様 点字用紙 十三箱
船橋 敬様 生ルーペ(シロシロ)演六本
不織布マスク 七百枚
株式会社エスエーシー
寺川 忠司様 不織布マスク 千枚
日野市健康福祉部障害福祉課様
不織布マスク 四百五十枚
東京都福祉保健局様
不織布マスク 二千枚
厚生労働省様 布マスク 八百二十五枚
中西 広子様 不織布マスク 百枚
浅見 玲子様 布マスク 十五枚
不織布マスク 三十枚
井川 寿美江様 手作り布マスク 五十枚

※紙面の写真は、すべてご本人の許可を得て掲載させて頂きました。

創立百周年記念 手さぐりの作品展

令和二年二月七日(金)～九日(日)
会場…イオンモール多摩平の森イオンホール



籐細工の巨大アーチの下で

東京光の家創立百周年を記念して、今回の手さぐりの作品展は会場を、光の家からも近いイオンモール多摩平の森の中にあるイオンホールとさせて頂きました。

東京都身障美術展の入賞作品を可能な限り展示させて頂きました。

今年の活動から生まれた作品からは、時の流れを表現すべく、時計や、ジョウロから水の流れを表現した作品、その他籐や紙、トイレットペーパーの芯など様々な素材を使って皆で作りに上げた作品を多く展示しました。

会場がイオンモール内であったこともあり、三日間で八〇〇名以上の方に来場していただきました。地域の方々に感謝申し上げます。



ジョウロからビーズで作った水が流れ落ちています！



折り紙の箱の壁がある～？！



ペーパークラフトで作った巨大大花火

発行 一九九一〇〇六五
東京都市野市旭が丘一七
社会福祉法人 東京光の家
電話 〇四二(五八二)二三四〇
FAX 〇四二(五八二)九五六八



石渡理事長の追悼の辞

創立百周年を迎えた今年も、百年前に東京光の家の前身である盲人基督信仰会を創立した秋元梅吉先生を追悼する会が開催されました。

そんな節目の追悼の辞は、当法人の石渡理事長から、「東京光の家 創立百周年の礎」と題したお話がありました。

第四十五回
創立者秋元梅吉
追悼集会
令和二年一月五日(水)